

さわかみ投信の

自立して堂々と生きていこう

さわかみ投信の伝統的なセミナーである「自立して堂々と生きていこう勉強会」。皆さまのご質問から開始する不思議な会を、この紙面ににて再現してみました。まさに全国で開催する弊社の自立勉強会そのもののかたちです。



30代女性

さわかみ投信はNISAより、つみたてNISAの方があっているのでしょうか？

現行の制度では両方とも良いとは言い難いです。2024年施行予定の新NISAも然り、皆さまの目線を“税”に向けすぎてしまうNISAは、私は失敗制度だと考えています。もちろん年齢が適応し、ブレない軸をお持ちの方にとっては有利な制度にもなり得ますが、投資環境が未成熟な日本において、投資への後押しが逆に大きなしつぺ返しを導くような気もします。企業と共に未来をつくり、社会という大きなリターンと財産という身近なリターンの両方を得られたなら、税金くらい払いましょう…と、矛盾するようですが、確定拠出年金(企業型DC)は財産形成において優れた制度で、NISAとは比較になりません。しかし残念ながら、未成熟な日本では、確定拠出年金すらもうまく活用されていません。



澤上 龍

さわかみファンドは長期保有により効果を発揮するので、保有し続けるならばNISA制度を利用するのもいいかもしれません。しかし、その時ご注意いただきたいのが税制優遇の期間です。一般NISAの場合、5年間という年限があります。お客さまの中には、税制優遇を受けるために早いタイミングで利益確定してしまう方もいらっしゃいます。もし当初の目的が長期での財産形成ならば、税制に惑わされるのは本末転倒です。



村瀬

正直どちらも合っていないと思います。日本に投資を根付かせようと鳴り物入りで導入された制度ですが、検討段階からお金持ち優遇との批判や税金を取りたい省との綱引きの結果、複雑な割に得なのか損なのかも分からない制度となってしまいました。お電話でもお問い合わせの多い案件ですが、NISAで購入することにより逆に税金を多く支払う必要が出てくる可能性なども知らないお客さまや、有効期限切れの前に売却しなくてはならないと考えられるお客さまが非常に多いのが現状です。税の制度は数年ごとに大きく変更されますので、その税制度に振り回されいつ売却すれば得か損かなど考えるのではなく、長期に亘ってマイペースで投資されることをお勧めいたします。



田中 和則

つみたてNISAは運用中のコスト、運用できる資産に一定の制限・条件があるファンドが投資対象となっております。長期間運用する場合、その時々で運用できる資産に制約があると運用者にとって運用手腕を発揮する機会を奪う可能性がありますし、運用者が満足に運用できなければ、結果投資家にとっても満足の得られる果実が得られない可能性があります。NISAもつみたてNISAも期限の長短はあれど、いづれも投資に期限を意識させるものです。さわかみファンドは期限を意識せず、じっくり付き合ってください。むしろ一生つきあってください。その良さを認めていただければ、長期投資を体現したさわかみファンドをお子さま、お孫さまへと引き継いでください。



岡澤

NISAは5年という制約があり長期投資には向かないと考えます。つみたてNISAでも20年の期限が長期投資にとって中途半端に思います。確定拠出型年金で十分に対応が可能な気がします。



泊



坂下

期限と年間の買付上限額がついているという点においては、どちらも変わらないと思います。つみたてNISAの非課税期間20年間は魅力的ではありますが、非課税の期限が、売りの判断基準になってしまうことに変わりはありません。さらに、20年経った時点で課税口座に移管する際に基準価額が下がっていた場合、デメリットが生じる可能性があります。例えば、つみたてNISAで合計40万円投資し、20年間運用した後の評価額が20万円になっていたとします。課税口座移管後に評価額が上昇し、資産額が40万円に戻ったため売却をした際には、20万円の利益が出ているとみなされ、その分は課税対象となります。20年後の市場予測などできないので、ギャンブルに近いですね。恒久的な制度ならまだしも、非課税期間が決まっているのではどちらもさわかみ投信、長期投資には合っていないと考えています。



50代男性

個別株(某機械株)を持っているが、この先に株価が上がりそうな情報があれば教えてください。



澤上龍

既知の情報はすでに株価に織り込み済みですよ。それよりも、もしその株を保有していない場合、新規で投資したいかどうかお考えください。投資は未来に対し行うものですので、改めてその株式に光るものを感じたならば保有し続けて良いのではないのでしょうか？逆に光を見出せなければ、他の光を探すべきでしょう。私たちは光、つまり情報を自らつくります。いくつもの仮説を立て、一つの推測に絞り込み、論理的に詰めていく。「自分が経営者だったらどうするか？」と客観視点を主観に変えることも重要です。そういった自らの情報は既知ではなく未知なるものです。必ず当たるとは言えませんが、繰り返すたび、そして時間を経るたびに精度を上げられます。それが投資にとって重要な再現性を生み出すのです。世間の情報に心揺さぶられるのではなく、自らの情報を信じているからこそ「長期で待てる」ことにも繋がりますし。



江藤

金融機関に入社して分かりましたが、インターネットが発達している現在は、証券会社も運用会社も把握できる情報は個人の方とそう変わらないように思います。また、簡単に得られる情報は既に株価に織り込み済みです。投資とは、情報自体よりも、情報からどのように自分で考えていくかが非常に大事なのだと思います。以前運用調査部がドイツの工作機械展示会へ視察に行った際に同行したことがあるのですが、やはりいくつかの仮説を持って頭で組み立てながら何度もブースを行ったり来たりしていました。お客さまが個別株を購入されたとき、おそらく何らかの期待を持って購入されたのだと思います。その期待は変わっていますか？ご自身で期待が持てず、明るい見通しを他人に求めているのだとしたら、売却も検討されるのがよいかも知れません。



田中 和則

投資対象を調査する視点はプロだからって何か特別なことではなく、常に生活者目線です。この商品やサービスが素敵だな、生活に必要なだな、と思うものについて、何故なのだろうか？技術力なのか？ブランド力なのか？他ではマネできないのか？将来はどうか？と徹底的に調査する。調査すればするほどまた新しい疑問が出てきてまた調査する。そのうち他の企業に行き着くこともあります。そして惚れぬいた企業を徹底的に応援する。この知的作業の楽しさをお客さまから奪っては申し訳ございませんので、是非ご自身でお調べ願います。

【ご留意事項】

| | | | | | |
|-----------|--|------|---|---------|--------|
| リスク | さわかみファンドは、主に国内外の株式や債券など価値のある有価証券等に投資します。そのため、組入れた有価証券等の価格、外国為替相場等の変動により、当ファンドの基準価額は影響を受けます。これらにより生じた利益および損失は、全て当ファンドの投資者(受益者)の皆さまに帰属することとなります。また、元本および利息の保証はなく、預金保険の対象ではありません。したがって、投資者(受益者)の皆さまの投資された元本は、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。その損失に耐えうる以上に当ファンドに対して投資することはご遠慮ください。投資信託は預貯金とは異なります。 | | | | |
| 購入時手数料 | ありません。 | 信託報酬 | 当ファンドの純資産総額に対して、1.10%(税込・年率)です。 | 信託財産留保額 | ありません。 |
| その他費用・手数料 | 当ファンドに組入れる有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に対する消費税等相当額、先物取引・オプション取引等に要する費用、一部解約金の支払資金の手当を目的とした借入金の利息は、信託財産中から支弁します。※これらの費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。 | 留意事項 | 投資に当たっては、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をよくご覧いただき、ご自身で判断してください。「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求は「ご縁の窓口」(TEL:03-6706-4789)までお申込みください。 | | |

■このレポートは、さわかみ投信株式会社が「さわかみファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。■当該投資信託の取得を希望される方は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申込みください。■このレポートは、信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動等を保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。■さわかみグループ各社の提供するサービスや商品について言及する場合がありますが、その販売・勧誘を目的としたものではありません。